

BL採便容器

BL採便容器は、全自動生物化学発光免疫測定装置BLEIA[®]-1200で測定するための糞便検体を調製する専用採取容器です。

より安全に、
より簡単に。。。



特長

● 検体の処理が簡単に

検査に必要な一定量の便を簡単な操作で採ることができます。採便後、縦に数回強く振るだけで便の懸濁液を調製することができます。

● 感染のリスクを少なく

採便容器のまま遠心分離ができ、装置にセットすると自動で検体が分注されます。

ノロウイルス抗原 ● 同時再現性

n	陰性検体		陽性検体	
	判定	判定	判定	判定
1	0.3	—	8.6	+
2	0.2	—	9.1	+
3	0.1	—	9.8	+
4	0.1	—	8.6	+
5	0.1	—	9.4	+
6	0.1	—	9.5	+
7	0.1	—	9.9	+
8	0.1	—	9.3	+
9	0.2	—	9.7	+
10	0.2	—	9.4	+
mean	全て陰性		9.33	全て陽性
S.D.			0.43	
C.V. (%)			4.6	

(COI)
(社内データ)

ヘリコバクターピロリ抗原・ノロウイルスの測定に・・・

▶ 体外診断用医薬品／承認番号 22700AMX00676000

ノロウイルス抗原キット

BLEIA[®] '栄研' NV

▶ 体外診断用医薬品／承認番号 30100EZ00023000

ヘリコバクターピロリ抗原キット

BLEIA[®] '栄研' H.ピロリ抗原

使用方法

< 糞便の採り方 >

1 採便容器の緑色のキャップを回転させて抜き取る。

2 キャップについている採便棒で、図のように、糞便の表面を幅広くこするか、又は5～6カ所を突き刺して採便棒の先端の溝が埋まるように糞便を採取する。
 ↑糞便表面を幅広くこする、または5～6カ所を突き刺して採便棒の先端に便を採取する。
 ←先端の溝をすべて埋めるように採取すること。

3 採便容器に採便棒を戻し、**キャップをしっかりと締める。繰り返して採便はしないこと。**

4 容器を縦に数回強く振る。

5 検体袋等に入れて提出する。

< 操作方法 >

1. ノロウイルス抗原を測定する場合、糞便を採取したBL採便容器を緑色のキャップが下になるように遠心機にセットし遠心分離(1,600×g、15分間)する。ヘリコバクターピロリ抗原を測定する場合は遠心分離をしない。
2. BL採便容器を緑色のキャップが下になるようにBLEIA[®]-1200専用検体ラックに立てる。
3. ラックをBLEIA[®]-1200の検体搬送ユニットに設置する。
4. BLEIA[®]-1200専用試薬を装置に設置し、測定を開始する。(BLEIA[®]-1200の測定操作方法は、装置の取扱説明書を参照してください。)

使用上の注意

1. 硬い便の場合は、水で温らせてから採便棒で糞便を採ること。
2. 糞便を取った採便容器はできるだけ速やかに冷蔵で保管し、輸送すること。
3. 採便容器の液を捨てたり、水を足したりしないこと。
4. 採便容器は糞便を採取する目的以外には使用しないこと。
5. 輸送された後の検査は出来るだけ速やかに行うこと。検査までに日数を要する場合は、採便容器を凍結保存(-20℃以下)すること。
6. 凍結保存した検体を使用する場合、室温にて融解後、採便容器を転倒混和してから測定すること。
7. 使用期限を過ぎた製品は使用しないこと。
8. 採便容器を再利用又は他の目的に転用しないこと。
9. 採便容器を遠心する際には遠心条件に注意し、所定の遠心力(1,600×g)を超えないようにすること。

取扱い上(危険防止)の注意

1. 試料(検体)は、ノロウイルス、サポウイルス、ヘリコバクターピロリ等感染の危険があるものとして注意して取り扱うこと。
2. 本品の内容液が誤って目や口、皮膚に付着したときは、直ちに大量の水で十分に洗い流し、必要があれば医師の手当てを受けること。
3. 採便容器は人体に直接使用しないこと。
4. 採便容器は小児の手の届かないところに保管すること。

包装単位・貯蔵方法・有効期間・製品コード

製品名	包装単位	貯蔵方法	有効期間	製品コード
BL 採便容器	100 本	室温保存	18 ヶ月間	E-BL50

本製品の使用上又は取扱い上の注意については、使用説明書及び製品添付文書をご参照ください。